

実践事例

1 実践の概要

(1) 取組みのねらい

「いじめ」は人間としてもっとも恥ずかしい行為であり、あってはならないものであるということを、生徒、教師が一丸となって認識し、校内から「いじめ」の絶無を目指す。

(2) 取組みの内容

- ① 定期的ないじめの調査と調査結果の共有・実態の把握
- ② 教職員や生徒会を中心としたいじめ絶無の運動
- ③ 保護者へ学校の取組みを説明し理解と協力を仰ぐ

2 実践の具体的内容

<取組み内容－①>

- 「いじめ」についてのアンケートを定期的に行うため、文部科学省の資料を参考にアンケート内容を自校化した。 【資料①】
- アンケートの結果はすぐに集計、全生徒の回答が分かるようにマトリックス化し全職員に配付する。 【資料②】
- アンケートの中に「いじめにあった」「いじめをみた」という生徒については、全教職員で分担し聞き取り調査を行う。

<取組み内容－②>

- 全校集会での校長講話、教職員による寸劇、道徳の時間の活用などあらゆる場面を活用しいじめについて考えさせる。 【資料③】
- 生徒会役員による「いじめ」についてのロールプレイングを行う。 【資料④】
- 「移中からいじめのなくそう」のポスターを作製し校内に掲示する。 【資料⑤】

<取組み内容－③>


- いじめ撲滅についての学校の取組みを保護者へ説明し、理解と協力をあおぐ。 【資料⑥】

3 取組みの評価

「子どもがいじめられた」との訴えが、ある保護者からあり、アンケート調査から多くの生徒が人間関係で悩んでいる実態が把握された。その後、さまざまな取組みの結果、生徒の中から「いじめをなくそう」という声が多く上がり、生徒の意識が変わってきた。軽はずみな行動をとる生徒が少なくなってきたように思われる。また、保護者会等でも学校の取組みを説明し理解と協力を求めてきた。今後も油断することなく、生徒の動きや人間関係を敏感に察知し、保護者の理解を得ながらいじめをなくす取組みを展開していきたい。

【資料⑤】

○中からいじめをなくそう！
そのためには、あなたが

 **観衆**

であってはいけない！

♥ **勇気をもって** ♥

正義の告発者 先生や親など
大人に言おう！

相談者 いじめを受けている人に自分から
声を掛けて相談に乗ろう！！

仲介者 いじめをしている人と、
いじめを受けている人の間に立って
仲を取り持とう！！！！

★○中学校いじめ撲滅委員会★

【資料⑥】

いじめ撲滅の取り組み

現状
いじめ「ゼロ」という状況にはなく、人間関係に悩んでいる生徒がいるという基本的認識である。

取り組み

- ・ 道徳の時間を中心として教育活動全体の中で、望ましい人間関係について学習させている。体験重視、外部講師の活用もその一環。
- ・ いじめについては、教職員からの働きかけだけでなく、生徒会活動の中でも取り組ませている。
- ・ 小学校との接続について改善を図っている。

(保護者会の資料の一部)